

エポキシ樹脂塗装鉄筋協会

国交相に要望書

活用範囲の拡大求める

エポキシ樹脂塗装鉄筋協会（会長・平元英二安治川鉄工取締役常務執行役員）は15日、同協会は、国内でエポキシ樹脂塗装鉄筋を

手掛ける5社で構成。



鉄筋コンクリート構造物の耐久性向上とライフサイクルコストの低減を目的に、公共インフラなどにおけるエポキシ樹脂塗装鉄筋の普及促進に取り組んでいる。

要望書には、道路橋示方書の塩害対策区分に関する「塩害実状の見直しと凍結防止剤散布地域への導入促進」など三つの事項を明

記。鉄筋コンクリート構造物で塩害や中性化による鉄筋の腐食が深刻化する中、エポキシ樹脂塗装鉄筋の普及を「次世代への負担軽減と持続可能な社会インフラの構築に資する重要な施策」に位置付け、「長寿命化の高耐久材料としても国土強靱化政策の一つになる」としている。

この日は平元会長を

はじめ会員各社の代表者らが国交省を訪問。中野国交相に要望書を

手渡した後、耐久性や防錆性に優れるエポキシ樹脂塗装鉄筋の機能を説明するなどし、鉄

筋コンクリート構造物に対する活用範囲の拡大を求めた。

